

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272900430		
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームはつとみ		
所在地	千葉県鎌ヶ谷市初富204-4		
自己評価作成日	平成21年11月26日	評価結果市町村受理日	平成22年1月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設とは異なり少人数での対応なので入居者一人ひとりの生活スタイル、ニーズに合わせて個別ケアを行い入居者及び職員と一緒に楽しく生活出来る場を提供、援助しています。また、ご家族へも定期的に入居者の生活の様子をお話しご意見を頂いたり、時には協力して頂いたり入居者、家族、職員とで一緒にホームを支えて頂いていることです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、梨畑に囲まれたのどかな環境の中にあり、明るく解放的で清潔感あふれる施設である。理念として「生命を安心して預けられる」「高齢者の尊厳を守る」を掲げ、一人ひとりの人格を尊重し、その人のペースに合わせて可能な限り自立して生活が出来るよう支援している。利用者は、家庭的な雰囲気の中でひなたぼっこや、家庭菜園、誕生会などを楽しみながら、法人の系列病院(千葉西総合病院、鎌ヶ谷総合病院)との連携による月2回の訪問診療や緊急医療体制のもとで、安心して暮らしている。また、地域の行事へ多くの利用者が参加したり、年4回の運営推進会議には地域住民を含め15名の参加があるなど、地域との付き合いや意見交換が活発に行われ、地域の一員として根をおろした運営を行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大きな二つの理念を掲げ理念の実行方法五つを設け、毎朝申し送りの後に理念を音読することで共有、実践しています。	当ホームの理念は「生命を安心して預けられるホーム」「ご高齢者の尊厳を守るホーム」であり、それを実践するための行動指針を6項目定めている。毎朝の音読や月1回の全体会議等で徹底し、全職員が実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入しています。それにより地域の運動会、盆踊りなど地域行事ごとに入居者と一緒に参加、交流を行っています。	町内会に加入し、新年会や忘年会、クリーンデー、運動会、盆踊り等に多数参加している。町内会でホームの説明をする機会があったり、また近所の人たちが立ち寄ってくれる等、地域との交流が活発に行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣近所の方など地域の方々が事業所へ立ち寄った際介護の事で相談されることもありますのでそのつど対応させて頂いています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に市担当課長、民生委員、自治会長、家族代表のメンバーで主に事業所の運営上の情報交換を中心に会議を行っています。	運営推進会議は年4回、市職員、民生委員、病院看護師長、近隣住民、家族等約15名が参加し、実施している。施設の運営状況や行事、防災訓練、インフルエンザ対策等について話し合い、改善に役立っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月一回市担当課の主催でテーマを決めて研修会を実施しています。通常の業務の他、サービスの質の向上の為に研修に職員が参加しています。	1～2か月に一度、市の研修会に出席し、災害対策や法改正の説明を受けている。ホームからは入居者の空き情報を伝えたり、市からは学生の職場体験研修の依頼を受け入れる等、市との協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない事を全職員の共通の認識としています。万が一拘束が必要な場合、家族へ文書による了解を得て定期的にモニタリング、会議を開催し改善に努めます。	身体拘束をしないことを基本としており、県の研修会に参加しミーティングで全職員に徹底している。普段から気付いたこと、気になることを話し合い、振り返りながら身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	問題発生時などそのつど話し合いを行っています。困難事例については全体会議にて解決に向けて検討会を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要な人が出ていないのですが必要な人が出てきた時の為に詳しい内容の知識を習得していきたいと考えています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施しています。入居にあたり本人、家族にお会いし納得されるまで話をお聞きし、又体験入居も行うことで理解、納得を図っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見、ご不満、苦情等早急に対応出来る事に関しては申し送りノートを活用し周知徹底し解決出来ないことはフロアー会議及び全体会議にて解決に向けて検討しています。	苦情相談窓口は24時間対応している。家族からの要望・意見は、家族会(年2回)と家族毎の個別面談時(年1回)、及び家族訪問時に聞いている。家族の意見は申し送りノートで共有・解決するとともに、会議でも意見交換しサービス向上に活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の際に主に聞いていますがそれ以外にも職員の意見、提案を聞き反映させています。	職員は、フロアー会議等で活発に意見を出している。評価査定の個別面談でも意見を言う機会があり、管理者は改善に反映させている。職員からも、働きやすく意見も言いやすい職場であるとの声が聞かれた。	家族からのアンケート結果では、「職員は生き生きと働いているように見えるか」の設問の評価がやや低いように見受けられる。職員の定着率向上の為に改善を期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年二回各職員へ自己評価シートを記入してもらい個々がどのように勤務に取り組んでいるのか把握に努め又普段の勤務状況を見て長所を生かせるよう勤務を割り振り向上心を持って勤務に就いて頂いています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議時に事例を皆で考える勉強会を行っており各職員のレベルの底上げ、統一した介護が行えるよう勤めています。また法人外研修も受けてもらい研修報告も行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内のグループはームむつみと合同の勉強会や行事へ参加することで職員同士の交流の場ともなっており、お互い切磋琢磨しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が求めていることなど個々にじっくり話を聞き時間が取れる限り対応することで信頼関係を築く努力をしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会へ来られた際は必ず家族と話をしています。家族から相談を受けたときは、まず家族がどうしたいのかを聞いて困った時は市役所や地域包括支援センターなどへ相談に行っています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	楽しく安全に安心して出来ることから支援を行い、必要にあった援助を行っています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のニーズを見極め、一緒に行くことでその人らしく生活が出来るよう援助しています。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者をホームの職員だけで支援するのではなく家族の定期的な面会や外出、外泊、時には職員だけでは対応出来ない時等家族の協力も得る事で共に関わりながら本人を支援する体制を築いています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームへ来られる前の自宅へ帰宅したり馴染みの喫茶店への外出、友人の面会等、その都度入居者への支援に努めています。	入居前に住んでいた近所の方や旧友が訪ねてみえたり、飼い猫に会いに自宅に外泊したり、家族と馴染みの喫茶店でひとときを過してもらおう等、今までの関係が継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士係わり合いを持つよう、又孤立しないように職員が支援するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続して家族と話し合い、必要に応じて相談や支援が出来るようにしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、家族と話し合い希望や意向を聞き把握に努めています。また、入居後も希望や問題発生時も本人、家族と話し合いの場を持ち把握、実行出来るように対応しています。	入居前や入居後も、常に利用者・家族とよく話し合い、思いや意向の把握に努めている。意向の表出が困難な方には、ゆっくりと十分話しかけし、その反応や日常の仕草、態度などから把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は少しの時間でも一人ひとりとコミュニケーションの中からその人を把握出来るよう努力しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特に心身状態はその日によって対応の仕方も変わってくる為、ケース記録や申し送りノートを活用し、情報を共有し職員が統一した援助が出来るよう努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は家族会にて本人、家族、職員でケア会議を開き計画、実行しています。	家族毎の個別面談時での話し合いや、日常の様子を記した個人記録や申し送りノートなどを基にケア会議で検討し、介護計画を作成している。	介護計画の更新時における評価の記録整備の検討をお願いしたい。また、介護計画の家族への説明、話し合いについて、家族アンケートでは一部不満があるようなので、対応の検討をお願いしたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はきちんと取っています。又情報を共有しながらモニタリング等に活用しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方に話を聞いてその人に合った支援を行えるよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員、入居者と一緒にゴミの分別、資源になるビン、カン等も区別して出しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時の記録をきちんと取り次回診察時に活用出来るよう支援している。母体の医療法人があり家族も急変時すぐに対応してもらえると安心されています。	ホームのかかりつけ医の往診は月2回あり、緊急時には対処法や指示を仰ぐなどして対応している。眼科や皮膚科など入居前からのかかりつけ医受診には家族が対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療で困ったときはすみやかに報告を行い対応出来るようにしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際定期的に病院へ行き、本人の様子や病院関係者との情報交換や相談を行っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在重度化した場合や終末期の対応について全職員がしっかりと対応出来るよう外部、内部の研修や勉強会を行っています。	現在、重度化した場合は病院や他の施設に移ってもらっている。ホームでは重度化や終末期に向けた対応は今のところ考えていないが、介護技術向上のための勉強会を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルが作成してあり避難訓練と一緒に急変、事故発生時を想定した訓練を行っています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回火元を想定して入居者と一緒に避難訓練を行っています。	年1回の消防署立会いの避難訓練や毎月利用者と一緒に火元や夜間を想定した避難訓練を行い、2階の緊急脱出用の滑り台からの脱出訓練も実施した。近所の方から訓練参加の申し出があり協力関係が築かれている。2月にはスプリンクラーの設置予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保、言葉使いや対応には気をつけています。	利用者は人生の先輩であるとの意識を常に持ち、言葉遣いや接遇に気を付けて接している。排泄介助時には利用者の様子やリズムを把握し、周りに配慮し「ちょっと行きましょう」と声掛けしてトイレに誘導している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞いて出来るだけ希望に沿うようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時、入居者は何がしたいのか、どのように過ごしたいのかを職員が汲み取り職員の人員にもよるが出来るだけ希望に沿うよう支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理容室にお願いして二ヶ月に一回来てもらっている。又清潔には気をつけて毎日の入浴の声かけを行い入浴してもらっています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が作れる入居者が少ないのですがその中でも出来ることはお手伝いしてもらっています。	野菜を切る、テーブルを拭く、後片付けなどが出来る方は職員と一緒にいる。時には味付けや料理方法など利用者から教えてもらうこともあり、楽しく食事をしている。ホームの畑で採れた野菜が食卓に上ることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックしています。摂取状況を観察する事で日々変化する様子を見逃さないように努めています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔保持に努め、必要があれば歯科往診への受診や相談をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時に声かけ誘導し排泄を促しています。日中はなるべく布パンツ、紙パンツを使用、個々に合わせた援助をしている。オムツ対応で入居された方も立位保持出来れば紙パンツで対応し今では布パンツとパットで対応しています。	トイレでの排泄や、排泄自立に向けた支援を行っており、日中はリハパンやパットを使用しオムツの方はいない。利用者の排泄の訴えや生活リズムを捉え声掛けし、立位保持出来る利用者にはトイレでの排泄を支援している。	極力トイレでの排泄をするよう支援して、オムツはずしに取り組んでいる。今後もこの取り組みが継続され、利用者のQOLの向上が図られるよう期待したい。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日24時間排便チェックすることで排泄状況を把握、便秘時は飲食物の工夫、運動を働きかけ対応しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけをし、本人の意見を取り入れ希望に合わせた入浴方法を取っている。日中、夜間など毎日入浴日となっています。	入浴は毎日出来、風呂好きな方は連日入浴を楽しんでいる。入浴をあまり好まない方にも声掛けして、週3回は入浴できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな番組がある時は声かけを行っています。就寝時間の個々様々で生活習慣を尊重し自由に安心して生活出来るよう取り組んでいます。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を間違えないよう二人で確認、服薬してもらっています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭菜園に力を入れ種まきから収穫までを楽しみにそれぞれの役割を行っています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応しなるべく行きたいときに外食や買い物へ行っています。又年間行事を立案する際も入居者交えてなるべく希望に沿って計画するようにしています。	陽気の良い時には利用者に同行して散歩をしたり、買い物に行くなど日常的な外出支援をしている。貝殻山公園や八柱方面など遠出の外出には、家族にも呼びかけて一緒に出かけている。	家族アンケートからは外出が少ない印象を受けるので、外出のあり方についての検討をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食に出かけた際はおやつを買ってくるのも楽しみにしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ポストまで職員と一緒に رفتり代わりに投函しています。家族等への電話もいつでも自由に行ってもらっています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に季節を感じて頂く為、共同で作品作りを行っています。	共有空間や居室全体が冷暖房や空調が行き届いており、利用者は心地よく過している。居間にはXマスツリーが飾られ、餅つき大会のお知らせが掲示されたりして、楽しみを持って過している。また居間からはウッドデッキがつながり外気浴や夏には夕涼みが楽しめる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルの他、テレビの前にソファー、和室もあり入居者が思い思いに過ごされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者、家族で居室の模様替えなど行い居心地良く過ごせるよう工夫しています。	馴染みの家具やベッド、小物などを運んで、本人の好みに配置して入居前からの暮らしが継続出来るよう支援している。また、居室のそれぞれの表札には折り紙のひよこやペンギンなどが飾られ、利用者の目印にもなっており、居心地よく過せるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はすべてバリアフリーで入居者がわかるように明記し戸惑いのないように生活出来るように支援を行っています。		